

製品名: EMMPRIN ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10444**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	BSG
別名	BSG; Basigin; 5F7; Collagenase stimulatory factor; Extracellular matrix metalloproteinase inducer; EMMPRIN; Leukocyte activation antigen M6; OK blood group antigen; Tumor cell-derived collagenase stimulatory factor; TCSF; CD147
遺伝子 ID	682.0
SwissProt ID	P35613
免疫原	抗血清はヒト BSG の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

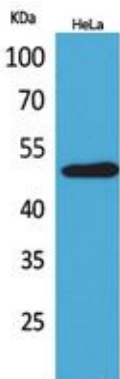
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、精子形成、胚着床、神経ネットワーク形成、および腫瘍の進行に重要な細胞膜タンパク質です。また、コードされるタンパク質は免疫グロブリンスーパーファミリーのメンバーでもあります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能:精子形成、胚着床、神経ネットワーク形成、および腫瘍の進行に極めて重要な役割を果たします。隣接する線維芽細胞を刺激してマトリックスメタロプロテアーゼ (MMPS) を産生します。モノカルボキシレートトランスポーター SLC16A1、SLC16A3、および SLC16A8 を網膜色素上皮および神経網膜の細胞膜に標的とする可能性があります。オリゴマンノース型グリカンの受容体であると考えられます。in vitro では、アストロサイトの突起の伸展を促進します。誘導:腫瘍細胞の表面に豊富に存在します。神経膠腫において発現が上昇する。その発現レベルは腫瘍の悪性度と相関する。、オンライン情報: 血液型抗原遺伝子変異データベース、PTM: N-グリコシル化、類似性: Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを 1 つ含む。、類似性: Ig 様 V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを 1 つ含む。、細胞内局在: SLC16A1 および SLC16A8 と共局在する (類似性による)。質量分析法により、ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で同定された。、サブユニット: 細胞膜上でシス依存的にホモオリゴマーを形成する。腫瘍細胞表面で MMP1 と複合体を形成する。SLC16A1 および SLC16A3 と相互作用する。おそらく BSG 二量体はモノカルボキシレートトランスポーター二量体と関連している。ATP1B2、MAG、L1CAM と相互作用する (相同性による)。AJAP1 と相互作用する。、組織特異性: 脳 non腫瘍領域では血管内皮にのみ存在するが、悪性神経膠腫では腫瘍細胞には存在するものの増殖血管には存在しない。、

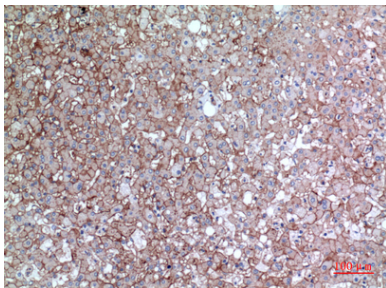
研究分野

免疫学

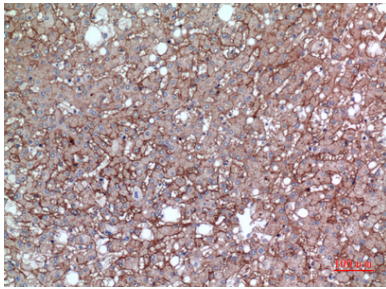
画像データ



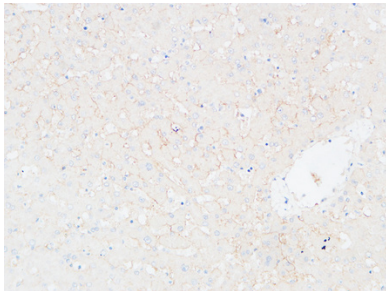
EMMPRIN ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



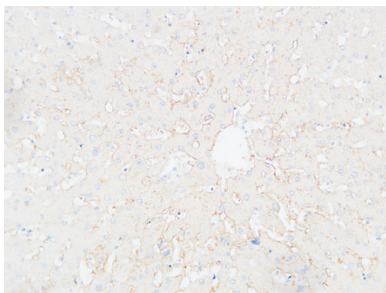
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



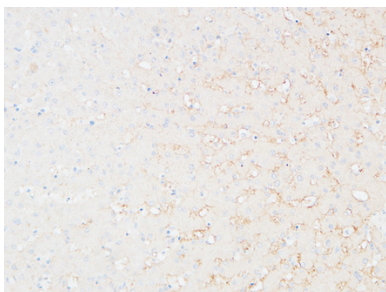
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。